

心の輪12R



『人に迷惑をかけなければいいのか?』

という資料を通して、

「きまりの意義」について考えました!



初めは『きまり』とは自由を奪うマイナスなものだと思っていたけど、『きまり』を守らないと知らず知らずの内に周りの人に迷惑をかけていて、守らないといけないものだ分かった。先生や親にも怒られたりするなど、自分にマイナスになることがあるので、『きまり』を守ることで自分にプラスになることもあるなと思った。

迷惑をかけないと思っていても、いつかは人に迷惑をかけたり、事故または大事故になったりするということが分かりました。看板や注意書きは、事故などにならないように書いているのだと思いました。

たとえ、誰にも迷惑をかけないとしても、いつか必ずやったことは返ってくるし、何も悪くない人に迷惑をかけてしまうことがあるかもしれないので、誰も見ていなくてもきまりをしっかり守れるようにしたい。

きまりは、みんなのためでもあるし、自分のためにもある。もし、きまりがなかったら、一人一人が成り立たない。みんなにも迷惑がかかるし、自分も後悔することになると思った。

『きまり』がないと、『自由』がなくなり、みんなに、周りの他人に迷惑をかけることになると思います。自分は『きまり』を守っていこうと思いました。

きまりは、みんなが安全に暮らすため、みんなが幸せに暮らすためにあると思う。また、その人を見てたくさんの人が真似をしてはいけないのできまりがある。これからは、社会のきまりを守ろうと思う。

きまりというのがあるのは、みんなが安全に過ごせるようにするためだと思う。これからは、しっかり守るように意識していきたいと思った。

法やきまりについて学んだこと



私たちの社会には、国で作られた法律、都道府県や市町村で作られた条例などがある。また、学校や学級のきまりを守って、学校生活を送っている。法やきまりは守らなければいけないと分かっていても、忘れてしまったり、どこか反発したくなったりすることはなかっただろうか。

文部科学省資料
『私たちの道徳』P.135より引用

saying
この人のひと言

法律の規定に触れさえしなければ
何をやっても可いという思想ほど、
社会に迷惑をかけるものはない。

吉野作造
■よしのさくぞう (1878~1933)
民本主義を唱えた政治学者。

約束は必ず守りたい。
人間が約束を守らなくなると社会生活は出来なくなるからだ。

菊池寛
■きくちかん (1888~1948)
小説家。『父帰る』『恩讐の彼方に』など。

きまりは、誰か一人が守るだけでなく、みんなが守ることに意味があるから、自分の不注意で起こった事故がないように、自分の行動を見返しながらしていきたいと思った。